

富山県小矢部市

平成20年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2009年3月

小矢部市教育委員会

例　　言

1. 本書は、2008（平成20）年度に富山県小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要報告書である。
2. 調査は、小矢部市教育委員会が実施した。ただし、本領地崎遺跡と地崎遺跡の調査は㈱太陽測地社に委託した。担当は次のとおりである
　調査事務：中井真夕（文化スポーツ課主任）
　現地調査（試掘調査）：
　　中井真夕　　桜町遺跡（個人住宅建設）、松永遺跡、田川条里遺跡（県道改良）、八講田遺跡、埴生条里遺跡、日の宮・道林寺遺跡、桜町遺跡（宅地造成）、田川条里遺跡（個人住宅及び農作業場建設）、桜町遺跡（店舗建設）、五社遺跡（個人住宅建設）、五社遺跡（個人住宅・一部造園場建設）、五社遺跡（農家住宅建設）、後谷条里遺跡、HS-23遺跡（個人住宅建設）、平田・藤森遺跡
　　大野淳也（同課主任）　HS-23遺跡（工場建設）、HS-23遺跡（個人住宅及び車庫建設）
　　藤井秀明（㈱太陽測地社遺跡事業部発掘調査員）　本領地崎遺跡、地崎遺跡
3. 調査の参加者は次のとおりである。
　現地測量・実測、整理作業等：福江千英里　田畠郁子
4. 現地調査の作業員は、社小矢部市シルバー人材センターから派遣を受けた。
5. 遺物の写真撮影については、アーガス・フォト・スタジオに委託し、本領地崎遺跡は㈱太陽測地社が行った。
6. 本書の編集・執筆は中井が担当した。本領地崎遺跡については藤井氏に執筆を依頼した。
7. 土層の色調については『新版 標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著、1967）に準じている。
8. 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

事業の概要	1
市内遺跡発掘調査等事業一覧	2
写真図版（遺物）	3
市内遺跡発掘調査等事業位置図	6
松永遺跡	7
田川条里遺跡（県道改良）	8
埴生条里遺跡	9
日の宮・道林寺遺跡	10
桜町遺跡	11
五社遺跡（個人住宅一部造園場建設）	12
HS-23遺跡（個人住宅及び車庫建設）	13
後谷条里遺跡	14
本領地崎遺跡	15

事業の概要

20年度の概要

2008（H20）年度に小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は21件である。うち19件は試掘調査で、分布調査と現地確認が各1件であった。開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地域除外申請にともなう問い合わせ等が30件あまりで、うち10件が携帯電話基地局建設によるものであった。

調査の原因は開発行為別にみると、個人の住宅建設等に伴うもの、工場や店舗の建設に伴うもの、県道および市道改良に伴うもの、経営体育成基盤整備事業（は場整備）に伴うもの、宅地造成に伴うもの、林地開発に伴うものなどと多様である。また、原因者は、個人9件、民間事業所6件、公共団体4件である。

21件のうち6件は、北陸新幹線敷設に関連したものであり、移転先が埋蔵文化財包蔵地であった案件であった。

このうち特筆すべきは、昨年度も分布調査を経て、開発範囲の一部で試掘調査を実施した地崎地区の経営体育成基盤整備事業である。従来、埋蔵文化財包蔵地の範囲外であった地域において高岡市福岡町の字名と小矢部市の字名で「本領地崎遺跡」を新規登録し、試掘調査を実施した。その結果、多くの遺構や遺物が発見され、本書報告をする。今後も引き続き構造物建設や田面調整はもちろんのこと、用水路の整備工事にかかるにあたり、十分な協議が必要となる開発である。

調査は、市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助をうけて実施した。試掘調査19件のうち、遺構および遺物が発見された9件については、その概要を本書報告し、他10件については調査一覧を参照されたい。分布調査、現地確認を実施したものについては以下に概要を記す。

分布調査

分布調査は、芹川地内において小矢部市が企業誘致計画にさきがけ、計画地の周辺にHS-22遺跡と右名田木舟遺跡が存在していることから実施した。対象面積は7,000m²で、近世陶器を1点採取したが、埋蔵文化財の遺存する可能性は低いものと判断した。今後も事業対象面積が広範囲におよぶ開発については、周辺に遺構や遺物の分布の可能性が低い地域においても、積極的に踏査していく。

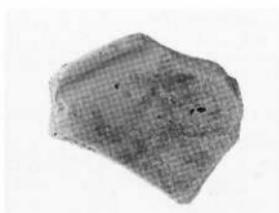
現地確認

現地確認は、石川県との県境の道坪野地内において風倒木処理に伴う「みどりの森再生事業」が計画され、隣接地に道坪野城跡が存在していることから、遺跡の保護範囲を提示するため実施したものである。当該城跡は戦国時代における前田氏と佐々氏の戦況を探る重要な資料の一つとなりうる。調査の結果、主郭や土塁などの遺構をはじめ、集落へ続く旧道も確認できた。その後、事業自体が消滅したものの小規模な開発が実施されることが懸念されるため、注意が必要な地域の一つである。

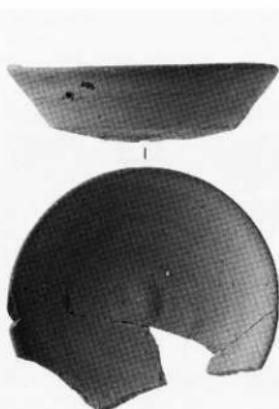
市内遺跡発掘調査等事業一覧

No	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期間	調査結果	測定原因
1	桜町遺跡 (個人住宅建設)	桜町字庭田 1305-4ほか	344m ² (14m ²)	試掘調査	20. 4. 7	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
2	松永遺跡	石坂318	1,000m ² (38m ²)	試掘調査	20. 4. 18	遺構確認されず。 上部器、近世陶器出土。	農作業用施設建設
3	田川条里遺跡 (県道改良)	田川7055番地 ほか	800m ² (62m ²)	試掘調査	20. 4. 21 4. 22	ピット確認。 珠渦出土。	県道改良
4	八溝田遺跡	八溝田字城谷2 ほか	184,000m ² (89m ²)	試掘調査	20. 5. 7 5. 9	遺構確認されず。 遺物出土せず。	林地開発
5	埴生条里遺跡	蓮沼456番地	3,315.69m ² (80m ²)	試掘調査	20. 5. 9 5. 13	遺構確認されず。 近世陶器出土。	給食センター建設
6	日の宮・ 道林寺遺跡	道林寺43番地	2,756m ² (115m ²)	試掘調査	20. 5. 19 5. 23	遺構確認されず。 土師器、須恵器、珠渦、 中世土師器出土。	工場敷地及び駐車 場建設
7	桜町遺跡 (宅地造成)	西中野字道庭 344-226 ほか	978.49m ² (32m ²)	試掘調査	20. 7. 22	遺構確認されず。 遺物出土せず。	宅地造成
8	田川条里遺跡 (個人住宅及び農 作業場の建設)	田川7085番地 ほか	1,071.88m ² (32m ²)	試掘調査	20. 8. 20 8. 22	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅及び農作 業場の建設
9	桜町遺跡 (店舗建設)	桜町字庭田 1522-1 ほか	670m ² (41.5m ²)	試掘調査	20. 8. 22 8. 26	土坑確認。 土師器、須恵器出土、珠 渦出土。	店舗建設
10	五社遺跡 (個人住宅建設)	五社425-1 ほか	380.58m ² (10m ²)	試掘調査	20. 9. 16	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
11	五社遺跡 (個人住宅一部改 善工事建設)	五社343	2,179m ² (54m ²)	試掘調査	20. 9. 16 9. 17	遺構確認されず。 土師器出土。	個人住宅一部改善 工事建設
12	II S-23遺跡 (工場建設)	小寺53番地	2,346m ² (124.5m ²)	試掘調査	20. 9. 17	遺構確認されず。 遺物出土せず。	工場建設
13	五社遺跡 (農家住宅建設)	五社416-1 ほか	1,572.01m ² (27m ²)	試掘調査	20. 9. 17	遺構確認されず。 遺物出土せず。	農家住宅建設
14	HS-23遺跡 (個人住宅及び車 庫建設)	小神74番地	2,138m ² (120m ²)	試掘調査	20. 9. 16 9. 17	遺構確認されず。 近世陶磁器出土。	住宅及び車庫・作 業所建設

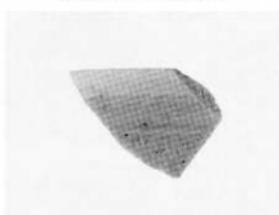
No	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期間	調査結果	調査原因
15	後谷条里遺跡	後谷字志番割 853ほか	369m ² (27m ²)	試掘調査	20.10.7	土坑確認。 縄文上器、土師器、須 恵器、珠洲出土。	個人住宅建設
16	HS-23遺跡 (個人住宅建設)	木牧383-1の 一部	603m ² (18m ²)	試掘調査	20.10.28	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
17	平田・藤森遺跡	平松6085-1 ほか	960m ² (36m ²)	試掘調査	20.10.30	遺構確認されず。 遺物出土せず。	市道改良
18	本領地崎遺跡	岡2ほか	45,960m ² (798m ²)	試掘調査	20.10.27 ? 12.8	土坑、ピット、溝確認。 土師器、須恵器、珠洲、 中世土師器、近世陶器 出土。	経営体育成基盤整 備(は場整備型)
19	地崎遺跡	地崎212-1 ほか	5,176m ² (100m ²)	試掘調査	20.12.9 ? 12.11	遺構確認されず。 遺物出土せず。	経営体育成基盤整 備(は場整備型)
20	HS-22遺跡、 石名木舟遺跡	芹川地内	7,000m ²	分布調査	20.10.16	遺構確認されず。 近世陶器出土。	企業誘致候補地
21	道坪野城跡	道坪野地内		現地確認	20.12.2	虎口、土壙、曲輪を確認。 遺物出土せず。	風倒木処理



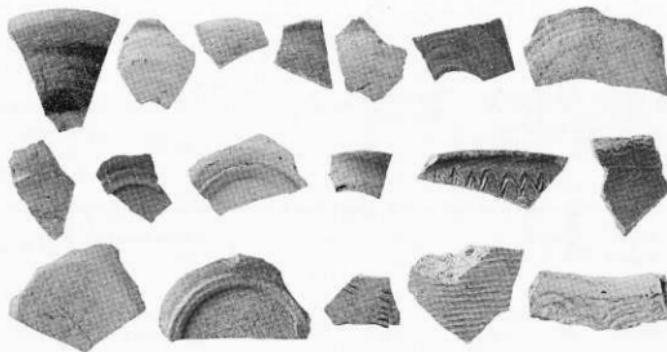
後谷条里遺跡 縄文土器1/1



日の宮・道林寺宮遺跡 白磁1/2



日の宮・道林寺宮遺跡 白磁1/1

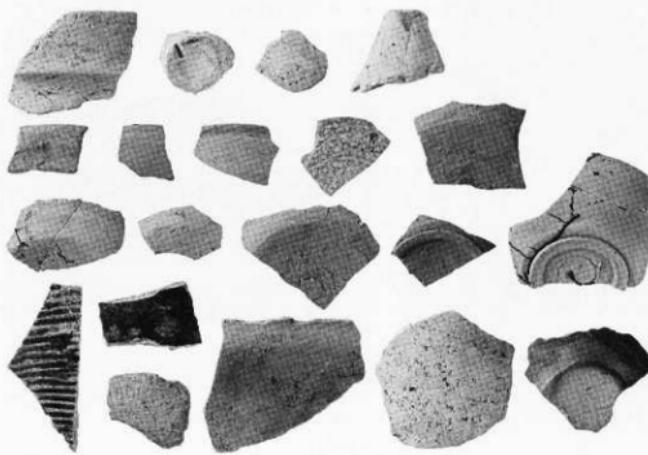


日の宮・道林寺宮遺跡



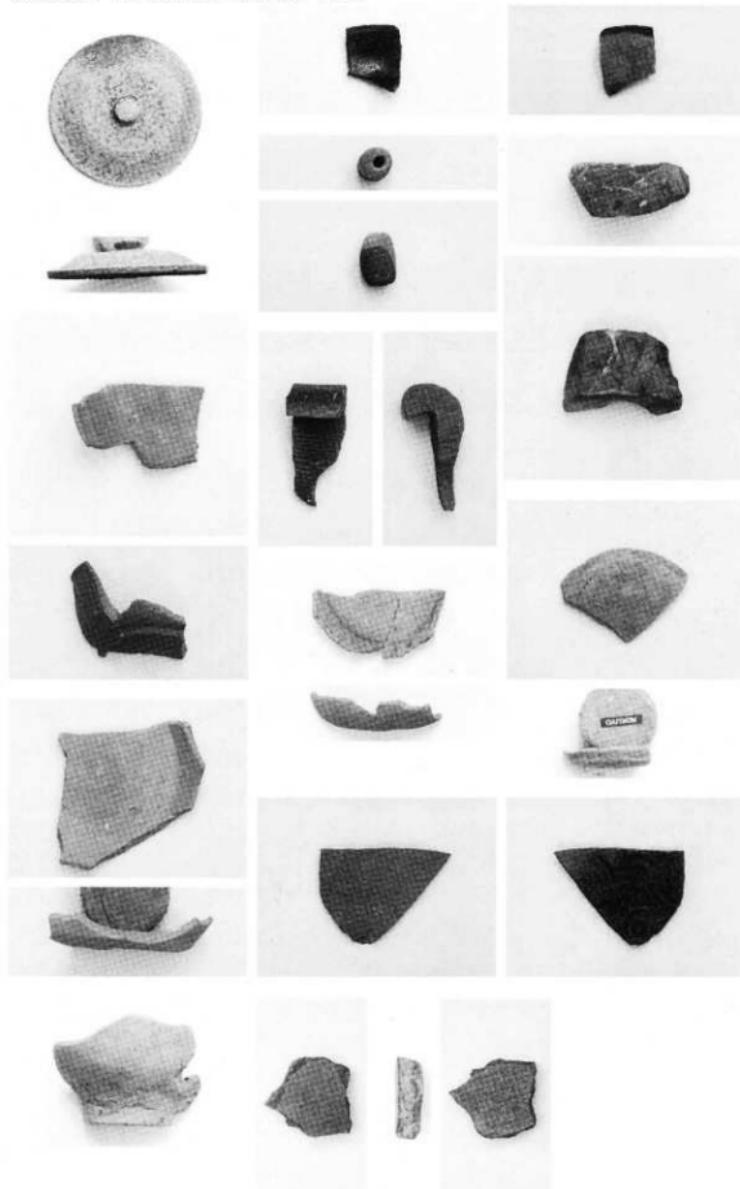
五社遺跡 製埴土器1/2

五社遺跡

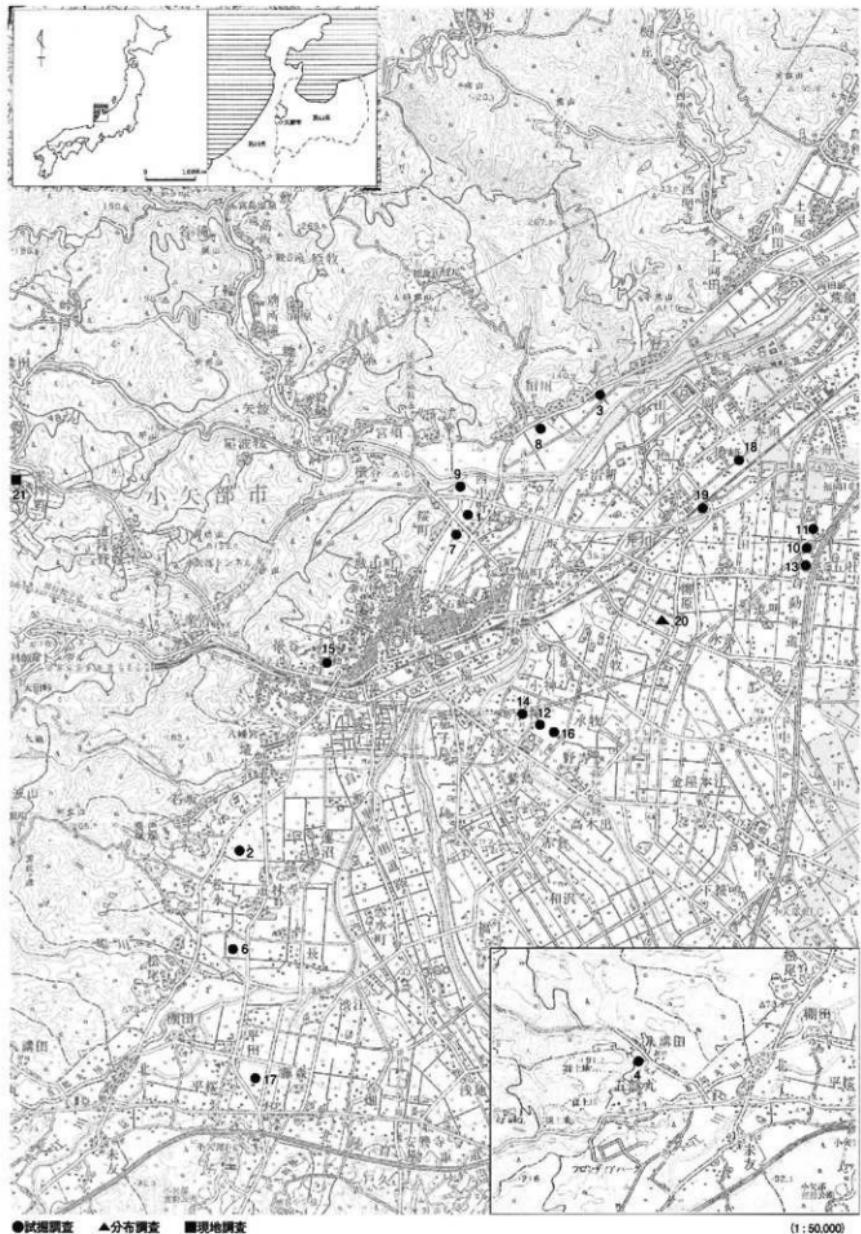


後谷糸里遺跡

本塙地岡遺跡 No2・No5調査区出土遺跡（スケール不同）



市内遺跡発掘調査等事業位置図



(1 : 50,000)

松永遺跡



図1 調査位置
(1:10,000)

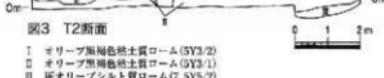
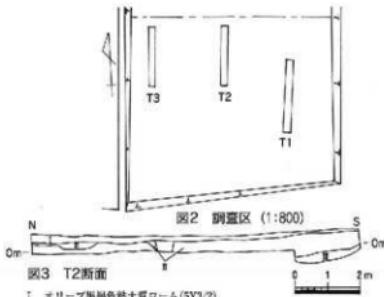
調査の概要

松永遺跡は市域中央を貫流する小矢部川の支流、渋江川左岸の河岸段丘に立地する。今回の調査は農作業用施設建設に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の南端に位置する。現状は水田である。

現地調査は2008年（H20）年4月18日に実施した。調査対象地1,000m²に1.5×12m (T1)、1×10m (T2T3) を2本で計3本の試掘トレンチを設定し、遺構及び遺物の有無を確認しながら、重機械により掘削した。掘削面積は38m²、最終的な掘削深度は1mである。基本層位はI層：オリーブ黒色粘土質ローム（水田耕作土）、II層：オリーブ黒色粘土質ローム、III層：灰オリーブシルト質ロームである。III層は地山と考えられ、II層が部分的に厚く覆っている。この堆積状況は昭和50年代に実施された、ほ場整備が起因するものであろう。今回の調査では、遺構は認められなかったが、遺物はT2のI層より土師質土器と近世陶器が各々1片出土した。その他、I層上面で古代後半に属する杯身1片を採取した。これは後世に当該地の西側に位置する遺跡から混入したものと考えられる。



調査状況 (北より)



田川条里遺跡



図4 調査位置
(1:10,000)

調査の概要

田川条里遺跡は小矢部市の北方、高岡市福岡町との市境に位置し、小矢部川の河岸段丘上から丘陵裾部に立地する。今回の調査は県道改良に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の北東から南西に位置する。現状は水田である。

現地調査は2008年（H20）年4月21、22日に実施した。調査対象地800m²に1×10m (T1-T2T4) を3本、1×8m (T3-T5～T7) を4本で計7本の試掘トレンチを設定し、遺構及び遺物の有無を確認しながら、重機械により掘削した。掘削面積は62m²、最終的な掘削深度は1.2mである。

調査地が道路に則して3箇所に離散しているため、T1～T5 (= I区)、T6-T7 (= II区) で各々基本層位を付けた。I区では遺構に伴うものではないが珠貝を1片採取した。II区では、包含層と考えられる層が認められたが遺物の出土はなかった。T6ではピットを1基断面で確認し、その周辺を拡張したが、他に遺構は検出しなかった。



図5 調査区 (1:2,000)



I区 調査状況（西より）



II区 T6遺構検出状況（南より）

埴生条里遺跡

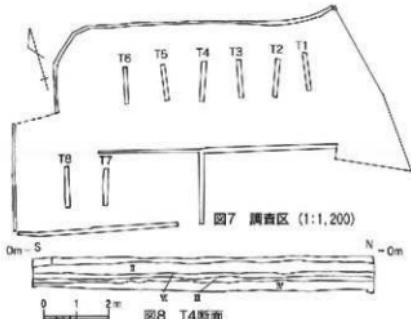


図6 調査位置
(1:10,000)

調査の概要

埴生条里遺跡は市街地の北側、小矢部川と渋江川の合流点付近に位置している。総面積は約1,700k m²と広大で、中世地割りが良好に残る地域である。今回の調査は給食センター建設に伴うものであり、調査地は遺跡範囲のはば中央部に位置する。現状は荒地である。

現地調査は2008年(H20)年5月9日～13日で3日間実施した。調査対象地3315.69m²に調査対象地内に1×10mで8本の試掘トレンチを設定し、遺構及び遺物の有無を確認しながら、重機械により掘削した。掘削面積は80m²で最終的な掘削深度は1.2mである。基本層位はI層：灰黄褐色砂質ローム(表土)、II層：灰白色砂(客土：山砂)、III層：黒褐色砂質ローム(擾乱土)、IV層：オリーブ黒色砂質ローム、V層：黒色シルト質ローム、VI層：オリーブ黒色シルトである。IV層は地山と考えられ、水がしみ出してくる。近辺の小矢部川や渋江川の氾濫源であったと考えられる。遺物はIII層から近代の陶器片を数点採取した。



調査状況(北より)

- I 灰黄褐色砂質ローム(5Y3/2)
II 灰白色砂(5Y8-2)
III 黒褐色砂質ローム(2.5Y3/1)
IV オリーブ黒褐色粘土質ローム(5Y3/2)
V 黒色シルト質ローム(2.5Y2/1)
VI オリーブ黒色シルト(5Y3/1)

日の宮・道林寺遺跡



図9 調査位置
(1:10,000)

調査の概要

日の宮・道林寺遺跡は市街地の南西、渋江川左岸の段丘上に位置する。周辺一帯は市内で最も遺跡が集中する地域で、従来8つの遺跡名で呼称されていたが、昭和57年度の遺跡詳細分布調査にて、すべてを含む広域を一遺跡として名称変更した。今回の調査は工場敷地および駐車場建設に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の南端に位置する。現状は水田である。

現地調査は2008年(H20)年5月19日～23日で4日間実施した。調査対象地2,756m²に調査対象地内に1×10mの試掘トレンチを12本設定し、遺構及び遺物の有無を確認しながら、重機械により掘削した。掘削面積は115m²、最終的な掘削深度は1.2mである。基本層位はI層：暗褐色ローム（水田耕作土）、II層：暗灰黄色ローム、III層：黒褐色シルト質ローム（遺物含有）、IV層：褐灰色砂質ローム、V層：黒褐色シルト質ローム、VI層：III層+IV層、VII層：黒色シルト、VIII層：黒褐色ロームである。IV層は地山と考えられる。本来の地形は、IV層の成相からT4からT8部分にかけて窪地または沼地であったと考えられる。古代の遺物を含んだIII層は、昭和50年代のは場整備の際に運ばれた可能性が高い。今回の調査では遺構は検出しなかったが、遺物は各トレンチのIII層より採取した。大部分は古代後半に属する遺物であるが、中世の遺物も認められ、小片であるが白磁を1点確認した。

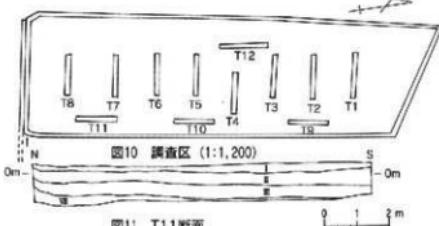


図10 調査区 (1:1,200)
N
0m 5m
E
W
S

図11 T11断面



調査状況 (東より)

- I 暗褐色ローム(10YR3/4)
II 暗灰黄色ローム(2,5Y4/2)
III 黒褐色シルト質ローム(SYR2/1)
IV 黑褐色砂質ローム(10YR4/1)
V 黑褐色シルト質ローム(10YR3/2)
VI 黒褐色+灰褐色
VII 黑色シルト(7,5YR2/1)
VIII 黑褐色ローム(10YR2/2)

桜町遺跡



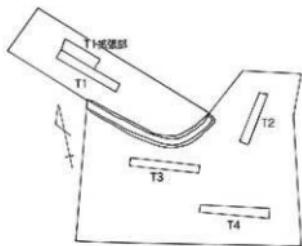
図12 調査位置
(1:10,000)

調査の概要

桜町遺跡は小矢部川とその支流である子撫川が合流する西側部分に位置し、段丘上から丘陵裾部に立地する。今回の調査地は店舗建設に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の西側に位置する。現状は畑である。

現地調査は2008年(H20)年8月20日～22日の3日間実施した。調査対象地670m²に、1×9m(T1,T2)を3本、1×7m(T3)を1本で計4本の試掘トレンチを設定し、重機械により掘削した。掘削面積は41.5m²で、最終的な掘削深度は1.6mである。基本層位はI層：黄灰色シルト質ローム(耕作土)、I層'：黄灰色粘土質ローム(蓮畠跡地)、II層：黒褐色シルト、III層：灰黄褐色シルト、IV層：灰褐色シルト、V層：暗灰黄色シルト、VI層：灰色シルト、VII層：灰色粘土質ローム(鉄分沈着)、VIII層：灰色粘土質ロームである。II層は遺存状況は薄いが遺物包含層と考えられる。T1では断面ではあるが、III層上面で3基の土坑を確認した。この

ため部分的に拡張したが、上層が蓮畠であったことや周辺の水田の影響で水が浸みだし、断面で土坑を1基確認するのみであった。遺物は全ての調査トレンチから出土しており、時期は古代が中心で、中世の遺物も少量認められる。



- | | |
|-----------------------|------------------------|
| I 黄灰色シルト質ローム(2.5Y4/1) | V 暗灰黄色シルト質ローム(2.5Y5/2) |
| II 黄褐色粘土質ローム(2.5Y4/1) | VI 灰色シルト(SY5/1) |
| III 黒褐色シルト(10YR3/2) | VII 灰色粘土質ローム(SY5/1) |
| IV 灰黄褐色(10YR4/2) | VIII 灰色粘土質ローム(SY5/1) |
| 層 黃褐色シルト(7.5Y4/2) | |



T1断面(南より)

五社遺跡



図15 調査位置
(1:10,000)

調査の概要

五社遺跡は市域の東側に位置し、小矢部川と砺波平野を貫流する庄川の扇状地に立地する。今回の調査地は個人住宅一部造園場建設に伴うもので、調査地は遺跡範囲の北端に位置する。現状は水田である。

現地調査は2008（H20）年9月16日、17日の2日間実施した。調査対象地2,179m²で1×9mの試掘トレンチを設定し、重機械により掘削した。掘削面積は54nfで、最終的な掘削深度は1.1mである。基本層位はⅠ層：オリーブ黒色ローム（耕作土）、Ⅱ層：黄褐色砂、Ⅲ層：黒褐色シルト、Ⅳ層：灰色シルト質ローム、Ⅴ層：灰色粘土質ロームである。Ⅲ層は遺存状況は薄いものの遺物包含層と考えられるが、Ⅱ層によって大部分が失われている。全ての調査トレンチでⅤ層以下に礫が現れ、水が浸みだしてくる状況から、周辺一帯が旧河川の氾濫源であったと考えられる。遺物はT3、T4、T6の調査トレンチから出土しており、T6ではⅤ層から古墳時代の土師器を採取した。今回の調査地の約150m東側に能越自動車道が位置しており、この建設に伴う発掘調査では同じく古墳時代の住居跡が確認されていることから、関連した遺物であると考えられる。



調査状況（南より）



図17 T5断面

I	オリーブ黒色ローム (SY3/2)
II	黄褐色砂 (2.5Y5/3)
III	黒褐色シルト (10YR2/2)
IV	灰色シルト質ローム (SY4/1)
V	灰色粘土質ローム (7.5Y2/1)

HS-23 遺跡



図18 調査位置
(1:10,000)

調査の概要

HS-23遺跡は、北陸新幹線建設に先立ち実施された分布調査で、新たに発見された遺跡である。市域の南東部の扇状地に立地している。今回の調査は住宅および車庫・作業所建設に伴うもので、調査地は遺跡範囲の西端に位置し、現状は水田である。

現地調査は2008（H20）年9月16、17日の2日間実施した。調査対象地2,138m²に1.5m×20mの試掘トレンチを4本設定し、重機械により掘削した。掘削面積は120m²で、平均的な掘削深度は約30cmである。基本層位はI層：暗オリーブ褐色シルト質土（水田耕作土）、II層：灰色シルトと黄褐色砂質シルトの混合（ほ場整備に伴うもの）、III層：黄褐色砂質シルト、IV層：褐灰色シルト、V層：黄褐色シルト、VI層：オリーブ色砂質土（粗い）である。土壤の堆積状況からみて、遺跡の基盤となるのはIII層上面であると推測されるが、今回の調査地内ではほ場整備前の水路跡とみられるものがT1で、ほ場整備に伴う搅乱とみられる落込みがT1とT3で各1ヶ所検出されただけで、明確な遺構や遺物は確認されなかった。遺物はT3の搅乱部から近世陶器（唐津）の破片が1点出土したが、その出土状況からは混入したものとみられる。



調査状況（東より）

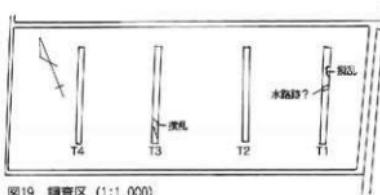


図19 調査区 (1:1,000)

後谷条里遺跡



図20 調査位置
(1:10,000)

調査の概要

後谷条里遺跡は、市街地の東側に隣接する台地上に立地する。遺跡の南側にはJR北陸本線が東西方向に敷設されている。周辺一帯は中世の条里地割が残る地域で知られている。今回の調査地は個人住宅建設に伴うもので、遺跡のほぼ中央に位置する。現状は水田である。

現地調査は2008（H20）年10月7日に実施した。調査対象地369m²に1×9mの3本の試掘トレンチを設定し、重機により掘削した。掘削面積は27m²で、最終的な掘削深度は1.3mである。基本層位はI層：黄灰色シルト質ローム（耕作土）、II層：黒褐色砂質ローム、III層：黄灰色ローム、IV層：褐灰色シルト、V層：黒色粘土質ローム、VI層：灰色粘土質ローム、VII層：黒色粘土質ロームである。V層は遺物包含層と考えられVI層上面で、T2では2基、T3では1基の土坑を確認した。しかしながら、III層は土質が軟弱で崩れてくるため、部分的に拡張し面的に広げる調査については断念せざるを得なかった。断面で土坑を1基確認するのみであった。遺物はコンテナパット1箱分の分量が出土した。時期は古代が中心で、縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世の遺物も認められる。なかでも小片ながら「大」の文字を杯蓋の内面に記した墨書き器が発見されたことから、この遺跡が中世の条里遺跡である以外の時期や性格を把握するために、更なる調査の機会を期待したい。



調査状況（西より）

本領地崎遺跡



調査の概要

本領地崎遺跡は、市域の東側に広がる扇状地に立地し、高岡市福岡町との市境に位置している。平成19年度に今回の調査原因となる経営体基盤整備事業に伴い、分布調査を実施し発見・登録した遺跡である。遺跡の東側には石名田木舟遺跡が隣接している。調査地は遺跡のほぼ全域である。現状は水田と畑地である。

前述の事業は開発面積が36万m²と広大であり、平成19年度調査より便宜的にNo1～No5の調査区名を付けたため、今回の本当該遺跡内では、No2とNo5調査区の45,960m²が対象となる。

現地作業は2008年(H20)10月27日～12月8日の21日間実施した。調査対象地に1×30mのトレンチを基本として設定し、地形や調査状況に応じて最終的には計33本のトレンチを入れた。掘削面積は約798m²で、掘削深度は平均約1mである。

調査方法は、重機による表土掘削作業後に、作業員による包含層掘削・遺構検出・壁面精査作業を実施し、調査員が記録作業を順次実施した。作業終了後は、速やかに埋め戻し作業を実施した。以下、概要である。

No2調査区

<調査区概要>

本調査区は、北陸本線を挟んで南側近接地に、周知の遺跡である石名田木舟遺跡が存在する。同遺跡においても、過年度、試掘調査が実施され、遺構・遺物の存在が確認されている。北側はNo5調査区を挟んで国道8号線が通り、東西は水田が広がる。



調査区遺跡 (北西から)

<耕作土直下の土層分布>

本調査区における耕作土直下の土層は、一部を除いて、概ねシルト質土が分布している。一部で砂質土や粘質土が確認されているが、シルト質土と大きく異なるものではない。後述するNo5調査区では、耕作土直下で疊層が確認された場所もあるが、本調査区では、耕作土直下での疊層堆積は確認されていない。

<遺構検出状況>

遺構は東端部で密度が高く、中央～西側では低い。

特に西側では、北側の一部を除いて、確認されなかった。遺構確認面は、大半が現地表面から浅く、0.1～0.2m 下のシルト質土面で確認されている。上記西側の一部では、現地表面下約1.0m付近で遺構が確認された。当初東側とは異なる遺構面（下層遺構面）とも考えられたが、検出面の標高に大差がないことから、一連の遺構面と推測される。



トレンチ6下層遺構確認状況（東から）



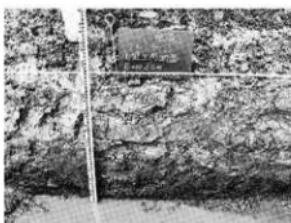
トレンチ5-6包含層掘削作業

<遺物出土状況>

遺物の出土状況は遺構分布状況とは異なり、東側では耕作土中から少量出土する程度であるが、中央部で良好な状態の包含層が確認され、現地表面下約0.6～0.8m付近の地層から、多量の遺物が出土している。時期はいずれも概ね古代～中世で、一部、近世の陶器片が含まれる。縄文～弥生は確認されていない。

<地層概要>

本調査では遺構損壊・消失を防ぐため、遺構が確認されなかつた範囲で、下層の確認作業を実施した。東側は、現地表面下約1.0m付近で、腐植土層の堆積が確認された。中央部では疊層が確認され、西側ではシルト質土又は砂質土層が確認された。このことから、腐植土層が確認された範囲周辺部には、河道跡もしくは低湿地状の鞍部の存在が推定される。



トレンチ2北壁土層断面（南から）

No5調査区



調査区遠景（北東から）

<調査区概要>

本調査区は、営農者から、耕作中に遺物採集が可能であるとの情報が得られ、東側近接地に高岡市指定の周知の遺跡が存在することから、今回の調査範囲に含められた。東西を集落に挟まれ、北側近接地には大規模娛樂施設が存在し、南はNo2調査区を挟んで北陸本線がある。

<耕作土直下の土層分布>

本調査区にあっては、耕作土直下で3種類の土層が確認された。東部～南西部の広い範囲では、シルト質土層が確認された。北東部の一部で、粗砂を基本とする礫層が確認された。礫層とシルト質は、概ねシルト質土層が上位であるが、部分的に礫層下位でシルト質土層が確認された場所もあり、また、北西部では少なくとも2層以上の礫層が確認されるなど、地層変化の激しい場所である。さらに粘質土が一部で確認されているが、粘性は弱く、シルト質土と大差はない。

<遺構検出状況>



トレンチ22遺構検出状況（東から）

遺構は、北西部の一部を除く、広範囲で確認された。確認面は、概ね、現地表面下約0.1～0.2mと非常に浅い。遺構が確認された範囲では、耕作土直下で礫層が確認されている場所もあるが、礫層面では、遺構は確認されていない。遺構の種類は、小穴・小型土坑・大型土坑・溝跡など、様々であるが、掘削調査を実施していないため、性格は不明である。

<遺物出土状況>

遺物は東側の広範囲で確認された。西側では南西部での出土が確認されないなど、僅かに確認されているが、東側に比べて少ない。また、出土遺物が確認された東側でも、包含層は確認されず、大半は耕作土中に含まれる遺物であるが、下層の腐植土中からの出土遺物も確認されている。耕作土中からの出土遺物と、腐植土出土遺物には、大きな時期差はない。ただし、耕作土出土遺物には、近世・近代と思われる陶磁器片も含まれるが、腐植土中からは同時期の遺物は確認されていない。近世・近代と思われる陶磁器片以外の遺物の帰属時期については、概ね古代から中世であり、No2調査区と同様である。



トレンチ26腐植土上面遺物出土状況



トレンチ25土層断面（北から）

<地層の概要>

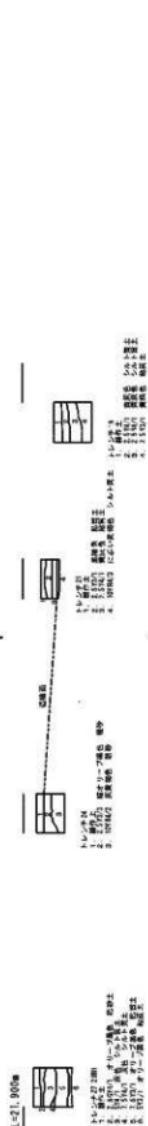
遺構が確認された範囲では下層確認のための掘削が実施できないため、東側トレンチの大半は、十分な調査がなされていない。遺構密度の低い場所を選定しながらの調査となつたため、局地的な資料となつてゐるが、それらを元に概況を報告する。

遺構が多く確認された東側では、シルト質土層もしくは砂質土層が確認されたが、概ね、掘削深度は浅い。西側～南西部にかけて、遺構密度が低い地域では、現地表面下約1.0mまで掘削したが、すべてのトレンチで、腐植土層の堆積が確認された。埋め戻し作業の際に、東側トレンチで確認された疊層の掘削作業を試みたが、現地表面下約1.0mまで掘削しても、様相に大きな変化は見られなかつた。あるいは、重機でも掘削が困難な状況であった。そのため、確認された疊層は、確認範囲周辺の基盤層とみられる。また、腐植土層の確認範囲は、No2調査区から続く、鞍部が展開する範囲であろう。



図24 調査区 (1:8,000)

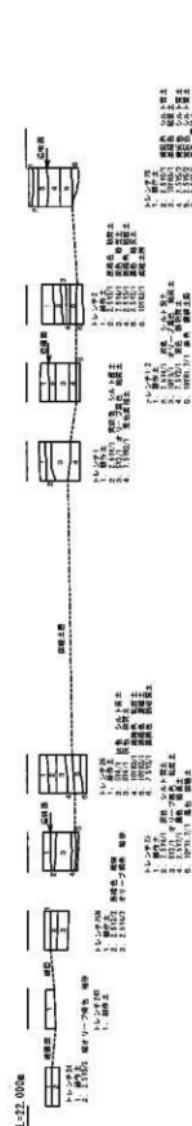
No.5調査区 東西土層断面模式図 (1／120)



No.2調査区 東西土層断面模式図 (1／120)

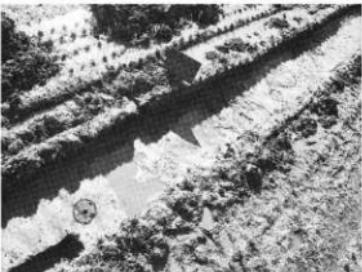


No.2・No.5調査区 南北土層断面模式図 (1／120)





トレンチ1-2 西から



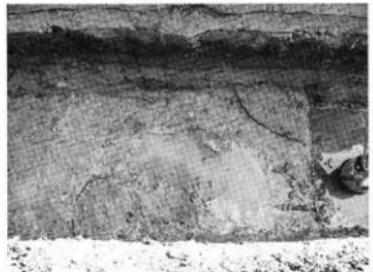
トレンチ20 北東から



トレンチ2S 東から



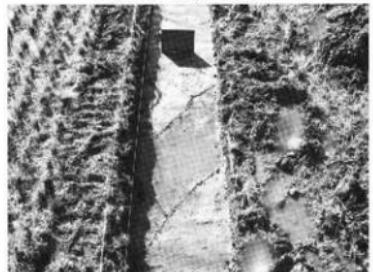
トレンチ22 東から



トレンチ5-6下層 北から



トレンチ23 西から



トレンチ9 東から



トレンチ24 東から

報告書抄録

ふりがな 書名	へいせいにじゅうねんどおやべしまいぞうぶんかざいはくつちょうきがいほう							
シリーズ名・番号	平成20年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査報告書第65号							
編著者名	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第65号							
編集機関	中井真夕 増井秀明							
所在地	小矢部市教育委員会							
発行年月日	平成20年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 山町村 道跡 番号	北緯 道跡 番号 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	測定対象 面積 (m ²)	調査原因	
松永遺跡	小矢部市 石坂318	16209	59	36°39'08" (36°39'19")	136°51'08" (136°50'58")	20080418	344	農作業用施設建設
田川冬季道路	小矢部市 田川7065番地 ほか	16209	180	36°41'46" (36°41'57")	136°53'38" (136°53'28")	20080421～ 20080422	800	県道改良
埴生条里遺跡	小矢部市 堀治456番地	16209	185	36°39'28" (36°39'39")	136°51'42" (136°51'52")	20080509～ 20080513	3315.69	給食センター建設
日の宮・道林寺 遺跡	小矢部市 道林寺43番地	16209	37	36°38'37" (36°38'48")	136°51'03" (136°50'53")	20080519～ 20080523	2,756	工場敷地及び駐車場建設
桜町遺跡	小矢部市 桜町字産田 1522-11ほか	16209	21	36°41'11" (36°41'22")	136°52'41" (136°52'41")	20080822～ 20080826	670	店舗建設
五社(個人住 宅建設一部遺 跡)遺跡	小矢部市 五社343	16209	170	36°41'59" (36°41'10")	136°55'08" (136°54'58")	20080916～ 20080917	2,179	個人住宅…部造園場建設
HS-23遺跡	小矢部市 小神74番地	16209	204	36°39'54" (36°40'05")	136°53'06" (136°52'56")	20080916～ 20080917	2,138	住宅及び車庫・ 作業所建設
後谷条里遺跡	小矢部市 後谷字七番割 853	16209	184	36°40'24" (36°37'56")	136°51'45" (136°51'35")	20081007	369	個人住宅建設
木瀬追跡遺跡	小矢部市 地崎・岡地内	16209	205	36°41'24" (36°41'35")	136°54'36" (136°54'26")	20081027～ 20081204	45,960	経営体育城整備 整備
所収遺跡名	種別	上古時代	主な遺物	主な遺物	特記事項			
松永遺跡	散布地	古代か	なし	土師器、近世陶器				
田川条里遺跡	集落	中世か	ピット	珠洲				
埴生条里遺跡	集落	古代	なし	近世陶器				
日の宮・道林寺遺跡	散布地	中世か	なし	土師器、須恵器、珠洲、中世土師器				
桜町遺跡	散布地	中世か	土坑	土師器、須恵器、珠洲				
五社遺跡	集落	古代	なし	土師器				
HS-23遺跡	散布地	中世か	なし	近世陶器				
後谷条里遺跡	条里	古代	土坑	輪文土器、土師器、須恵器、珠洲				
本創寺地崎遺跡	集落	古代・中世	土坑、ピット、溝	土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、近世陶器				

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第65冊

富山県小矢部市

平成20年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 平成21年3月31日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号

TEL 0766-67-1760

印 刷 ジオミックス PR プランニング

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第65冊

富山県小矢部市

平成20年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 平成21年3月31日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号

TEL 0766-67-1760

印 刷 ジオミックス PR プランニング